

岩槻新校基本計画検討委員会（第1回）議事録

日 時 令和4年12月13日（火）15:00～16:35

場 所 岩槻高校会議室

出席委員 栗藤委員長、伊藤（茂）副委員長、前島副委員長、伊藤（宏）委員、
鷺田委員、松田委員、式田委員、渡辺委員、持田委員、池田委員、
赤池委員、山谷委員、横山委員、大場委員、中澤委員、三宅委員、
水谷委員、大沼委員

事務局 魅力ある高校づくり課 坂本、高辻

協 議 「岩槻新校基本計画検討（案）」について

○主な意見・質問・回答

No.	主な意見・質問・回答
1	目指す学校の岩槻高校案について、特にア（進学を重視し、生徒一人一人の自己実現を支援する）とウ（近隣の小・中学校や大学等との連携）は重要と考える。ここにさらに国際関係について関連付けていければと考えている。
2	これまでの岩槻高校は、例えば外国にルーツを持つ子供たちを、社会を支える一員となるようサポートしていく役割も担ってきたが、新校の役割は、それとは異なるのか。 （回答）新校の基本方針は、新しい方向性として定めたものであり、グローバルな視点を取りつつも、地元の良いところを海外に発信していくことで、生徒に豊かな表現力を身に付けさせたいと考えている。 一方で、外国にルーツを持つ子供が増加傾向にあるという現状の課題に対して、地元のニーズに応えていかなければならないとも考えている。
3	生徒指導の具現化案として、両校ともカウンセリングマインドやスクールカウンセラーに言及しているが、この点は非常に重要であると考えている。
4	カウンセリングマインドやスクールカウンセラー等は大切だと思う。手厚い生徒指導が新校の特色となれば、様々な事情を抱えた生徒にとっても通いやすい学校となり、現状の課題の解決にもつながるのではないかと考える。
5	進路指導については、岩槻高校のキャリアパスポートを活用していくべきと考える。高大連携についても、岩槻高校が現在行っている活動を継続していくことが望ましいと思う。
6	岩槻高校にも岩槻北陵高校にも外国にルーツを持つ生徒が数多く通って

	おり、日本語学習の支援などのサポートを行っている。そのような生徒への理解を深め、より校内で活躍できるような体制が構築できると良いと考える。そうした良さを新校にも引き継ぎ、外国にルーツを持つ生徒たちが日本語を理解していけば、国内外で活躍できる人材の育成というところに繋がるのではないかと思う。
7	論点にある「海外との連携」について、具体的に説明いただきたい。
	(回答) まずは、これまで両校が行ってきた活動を引き継ぎたいと考えている。それに加えて、基本方針に掲げている「国内外で活躍できるグローバル人材の育成」を実現するために、海外の学校等との連携も模索していきたいと考えている。
8	外国人特別選抜について、岩槻高校では、この選抜によって入学する生徒は例年数人だが、実際には一般選抜で入学している外国にルーツを持つ生徒も多い。日本語の理解が不完全である生徒も多く、国語科教員等が、そのような生徒への日本語指導にも対応している現状がある。新校をアピールしていくのであるならば、そのような対応ができる、ということを前面に出していく方が良いのではないか。
	(回答) 外国にルーツを持つ生徒に対しても、しっかり対応しなければならないと考えている。それを強みにしていくということは、一つのアイデアだと思う。
9	岩槻高校の校舎・施設を活用して新校を設置するということが、校舎等の現況を鑑みると、新校としての教育を展開していくには、様々な検討が必要だと考える。
	(回答) 学びの環境をどう整えていくかについても、今後検討していくことになる。